

**E** エッセイ  
**ssay.****国際ソロプチミスト豊橋ポート  
の活動**国際ソロプチミスト豊橋ポート  
会長 **森田 裕子**

ここ豊橋には同じ志を持つ2つの奉仕団体があります。国際ソロプチミスト豊橋と国際ソロプチミスト豊橋ポートです。私は国際ソロプチミスト豊橋ポートに所属していますが、私たちソロプチミストは、地域社会と世界中で女性と女性の生活向上を目的に奉仕活動を行っています。

私たちのクラブは9月の新年度になると、その年度ごとにテーマを掲げます。2011年度は「夢と希望を届けよう～子どもたちの笑顔のために～」がテーマです。2010年度は、こども未来館に、未来を担う子どもたちのため大型紙芝居一式を寄贈しました。また、愛知県立豊橋南高等学校のボランティアグループ「のはな」を支援し、年に一度交流会を行っています。その紙芝居をこども未来館で披露する若い彼女たちの姿は、奉仕の繋がりや広がりを感じさせ、私たちに思いがけない感動を与えました。

豊かな時間、想像力を子どもたちにという想いも含めて同館への5か年継続事業となり、今期も大型絵本8冊を贈りました。その日には、招待した約100名の園児や来館中の親子連れに音楽朗読劇「カえるくんのたからもの」を楽しんでもらいました。スクリーンに映し出される絵本の原画に合わせて、生の音楽と朗読で作上げる本物の世界。下の写真がその時の様子です。きっと、初めて目にする耳にするジャンルに子どもも大人も魅了されたことでしょう。



私たちのクラブは「とよはし国際ナショナルフェスティバル2011」で、今回初めて会場の一角に日本文化体験「茶道」コーナーを設け、季節の和菓子とお抹茶でおもてなしをしました。小さな外国の女の子がお父さんと一緒に来て何やら2人でヒソヒソ話をしている様子は微笑ましく、きっと“少し苦い”とか言っているのだろうと想像するのは楽しい、ささやかな国際交流でした。

組織の強みを実感したのは皮肉にも東日本大震災でした。この有事に世界中のソロプチミストが日本に心を寄せてくれています。そして、震災で遺児となった子どもたちのために、日本のソロプチミストは初の合同奨学金プロジェクトを立ち上げたのです。クラブテーマを考えた時、被災された子どもたちを強く意識するのは当然です。

私たちクラブもこのプロジェクトに参加、支援いたします。また、福島在住の詩人、和合亮一氏を迎え、3月3日（土）午後2時からホテル日航豊橋で講演会を行います。福島県は震災に加え放射性物質による汚染が起きました。数十年というスパンで考えなくてはいけない現実

に、同じ日本人である私たちはどのように向きあえばよいのでしょうか。本当に重い命題です。福島の人々の心情に少しでも寄り添うこと。これを考えていけば何らかのアプローチができるかもしれません。和合亮一氏のツイッターから発信された詩の礫は受け取った人たちの心を揺さぶったのですから。

今年11月国際ソロプチミスト豊橋ポートは認証20周年というひとつの節目を迎えます。これまで、そしてこれからも、地域社会、世界へ小さな礎となるための一歩を行っていききたいと思います。

